

第6回

地域包括支援センター展勝地

圏域内介護支援専門員研修会報告

平成31年2月19日10:00～
更木地区交流センター 多目的ホール

参加者

- ① やちだもの家北上ケアプランセンター
- ② 介護相談センターふたご
- ③ エスカール在宅介護支援センター
- ④ 居宅介護支援事業所浮牛の里
- ⑤ 八天の里在宅介護支援センター
- ⑥ グループホームやちだもの家北上
- ⑦ グループホームくちない
- ⑧ グループホームさらき
- ⑨ 看護小規模多機能居宅介護きずなの森
- ⑩ 地域密着型特別養護老人ホーム浮牛の里
- ⑪ 特別養護老人ホーム八天の里
- ⑫ 地域の支援者：民生委員、社協支部職員、駐在
- ⑬ 社協本部
- ⑭ 市内病院医療ソーシャルワーカー
- ⑮ 行政・他地域包括

①前回の振り返り

講演「精神疾患について」

講師：岩手中部保健所 保健師 佐賀 唯衣 氏

- ・精神疾患とは

 - うつ病

 - 統合失調所

 - ひきこもりについて

②情報提供：「低所得者支援について」

- 1、暮らしの自立支援センターきたかみ

- 2、なんでも心配ごと相談センター

- 3、北上市医療介護連携支援センター

- 4、北上市保健福祉部福祉課生活保護係

- 5、北上市保健福祉部国保年金課公費医療係

グループワーク

「相談を受けて、訪問して、悩んだ、困った事例について」 (関係機関の方からの助言も頂ければ)

①グループ

- ▶ ・なんでも心配ごと相談センターで受けた相談事例。

平成23年～支援しているが、60歳代の息子さんの気持ちがその時々で変わる。(農業に固執) 親類などにも相談しているがなかなか・・・生活保護を受ければ、電気、水道止まらないと思うが・・・農業続けたい。→親類に農地を売却考えたが、高額提示で成立しなかった。

トラクター2台のうち、1台売却を考え、そのお金で生活する予定。人の意見を受け入れられない。もう少し話を聞いてくれればいいのにな。

前に草刈りしたが、家から出てこなかった(草刈りの油もなく)終わってから声をかけたら、ありがとうと言われたような・・・

本人の病気ある。お母さんの介護をしている。(えん訪問診療)何とかしてあげたい。

本人の病気→周りの人に理解してほしい。糖尿病はしっていたが、統合失調症知らない

農業、母の介護→頑張りたい気持ちが強い。本人は母の介護で何かあれば、すぐに「えん」にTELする。本人は、何かあれば必要なところにTELするし、どこに行けば良いか理解している。解決するのは・・・よりは・・・困ったときに周りの人が支えられる関係事業所で情報共有や理解が必要。

本人からのTELが多い時は、心配があるとき。→地域の方が対応など困ったときは「えん」にTELしても良いです。

本人の病院では、病状理解しているが、母のことはわかっていないと思う。関係している人達で会って話す必要がある。お酒も飲んでいるよう。

グループワーク

②グループ

- ▶ ・不登校など家庭内の問題。食べ物が足りていない環境。→地域の支援改善→学習発表会に出たり、明るくなった。
- ▶ ・社協に来る相談者→若い人は自分で調べてくる。他は民生委員などがつないでくれる。

地域性もある。→つながり強いことのデメリット→入り込みにくい支援の工夫（入り方）

命にかかわる事態はさける、アンテナを張る。

フードバンクは持病がある方は食料向かないとき有。→安心サポート？

- ▶ ・お金がなくて受診できない方。手持ち金がとても少ない状況。どこに案内してよいか迷う。済生会などにご相談を

※このようにいろいろな制度があり、何ともならないケース少なくなってきたのでは。

※フードバンク、利用の1~2割の方が複数回利用している。

グループワーク

③グループ

▶ ・8050問題事例。

50代男性、仕事長続きしない。家でひきこもり。飲酒してしまう。依存症傾向。生活実態不明。

→宗教活動はありそう。母施設入所中。地域との交流（-）

※地域の想い→部落の活動に出てきてほしい。

※社協→困っていることを知りたい。

※気づき→同じような事例はよくある。母の収入頼っている。働く意欲あるが、うまく就労できない。
(コミュニケーション、知能：学習力、適応力、病気はないか)

※誰か接点をつくる。

※専門職をうまく使えたら=伴走者が必要

※地域の担い手→社会性のリハビリをしながら、収入も得られれば。地域とは離れた場にもあると良い。

※農福連携→高齢者やちょっと就労不安な人。

※交流センターのバックアップ→草刈り機の貸し出しなど

グループワーク

④グループ

- ▶ ・ 駐在所へもなんでも心配ごと相談センターと同様のようなケース。「お金がないので借りたい」
- ▶ ・ 2週間に1回くらい3000円から5000円／回程貸し付け、トータル2万円位。（個人的）
- ▶ ・ 米と引き換えに貸してほしい。→売りに出すよう助言。
- ▶ ・ 車中泊、お金がない。→駐在所から声をかけ、ガソリン支給し、自宅帰宅を促す。
- ▶ ・ 市の補助で主に駅前交番で、1～2駅分の切符ダイヤ軽食代を貸す。（行政や包括、社協など連携）
- ▶ ・ 認知症高齢者の搜索要請。
- ▶ ・ 経済的に「何とかやりくりできる」「どうしようもない」方→民生委員から包括へ相談。
- ▶ ・ 二子地区→地域柄自宅で過ごす方が多い。隣近所での見守りや声掛け、つながりができている。

※制度へ繋げることも重要だが、近所同志のつながりで困っている人をキャッチ。

（制度だけで賄えない、物貸し借りなど）

※関係機関同志の繋がり。有志の集会に来られない方、来たくない方など心配。

グループワーク

⑤グループ

- ▶ ・ 成年後見制度利用の例→生活保護世帯「介4」介護保険制度が利用できない
→老健施設に入所
療養型→保証人2人必要※施設入所の際は、多床室1万円程度、
- ▶ ・ 個室5～6万円（保護対象にならない）
（例）ユニット施設（16～17万円/月）→国が勧めている制度で以前補助金7～8割出たが、今は2割くらい
- ▶ ・ ふれデイなどでも入所について話が出る→お金が足りなくて難しいな...と話になる。→収入の低い人が多い。
- ▶ ・ 8050問題→親の年金をあてにしている子供世帯が多い。働き方改革→非正規社員30～40年経った時自立できなくなる。目に見えている。
※介護だけの視点だと不十分。経済界などからも対策を講じていくべき。
- ▶ ・ 短時間（3時間）利用のデイサービス。送迎時間の関係で利用できない。車がない。3時間の中に送迎時間を組み入れない。（1時間かかると実質2時間利用になる）
※元気な人を増やそうという制度なのに、利用に制限があり、レベル低下していく介護度が上がる。
- ▶ ・ 農家→法人に預ける→法人で行う→米はもらう→収入は法人、手元に来るのは少し。（農機具や肥料の費用はかからない）
- ▶ ○困る前に相談に来てほしいが、相談するのは嫌という気持ちがある。

グループワーク

⑥グループ

- ▶ ・低所得者の方、世帯→どのように声掛けや支援をしたら良いのか？
- ▶ ・地域の人とほとんど関わりを持たない方、ひきこもりの方→どのように関わっていったら良いか？

※居宅介護支援に関わっていないとイメージが湧かない。

※民生委員、包括の方の協力が必要。

※周囲の住民の方の情報→よく見ている人、良く知っている人多い。

→それぞれの印象は異なるかも知れないので、まず話を聴く。

→地域からの発信が一番大事!!

※地域力

- ▶ ・地域の関係性→アパート等が増えてくると、地域の中で知らない人も増えたり...
民生委員を知らない。連絡の仕方もわからない等出てくるのでは？
区長さん、班長さんなどの力も借りたい。

⑦グループ

▶ ・生活保護について

扶養義務者が拒否すれば、対象になることも...でも高収入であれば、扶養していただくこともある。

ケアマネ、民生委員範疇を超える。線引きがわからない。どこまでかかわっていいか。→ケアマネ=一番近い存在。

申請→本人が一番ベストだが、支援者と一緒でもよい。（子供の意思確認も必要）

使い方→生保の方は、旅行はダメか？→市民感情...ギャンブル北上市はダメ
しかし...振込なので、直接指導できないこともある。使う順番、何を優先かわかっていない。

▶ ・誰でも申請できるが、自立を目指す。

▶ ・生保を外れた場合の理由。

→在宅基準7万円。施設基準2万円。ロングショート法定外の部分が1日。
医療費と生保は別と考える。

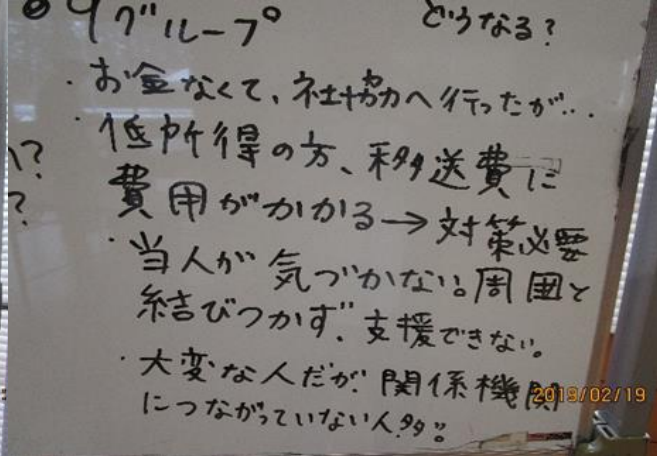
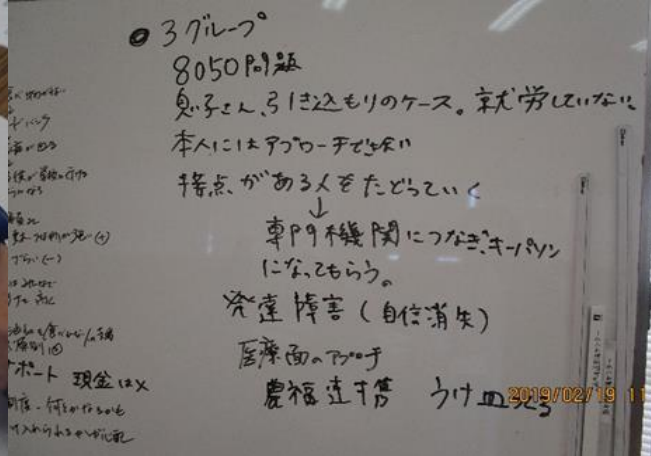
⑧グループ

- ▶ ・民生委員さん同士や自治会長さんなどの間で、情報交換、共有する機会がほとんどない。
(地域でネットワーク会議は行われているが...)
※何かあったら包括に相談できるので心強い。
- ▶ ・低所得の人はいろいろな理由で孤立しているケースが多い。
保護を受けている方にもいろんなケース有。
車を持っていることで受給できないと思っている方々も多い。
大変な生活（母子家庭など）でもギリギリ対象にならないケースにも大変な方々がいらっしゃる。
身近な民生委員だと相談しづらいと思う人もいる様子。（直接、市役所に相談するケースもある。→そうなると状況把握が難しくなる）
最低生活費を受給して、生活費を使い切る方、コツコツ貯める方がいる。貯まった分はどうなる？

⑨グループ

- ▶ ・社協にお金なく相談したが、支援事業に結びつかないことがあった。初動が大事、生保に結び付けるのが難しい→生保＝難しいイメージ
- ▶ ・低所得者の悩み→生保を受けるために、車がなくなったらどうしよう。病院に行くのにどうしよう。山間部の悩み。
- ▶ ・年金払ってないともらえる年金が少ない。→生活が難しくなる。
- ▶ ・年金担保→借りても返せない。手続きに時間がかかる。
※大変な状況なのに、関係機関に繋がっていないケースある。
- ▶ ・支援者が「もうちょっとこうしたほうが…」と思っても、当事者がピンときてない。家族間の意思の統一が...
- ▶ ・家族が閉ざしているケースが、対応難しい。先のことを考えて助言していても周囲との結びつきがうまくできない。
- ▶ ・社名入っている車で訪問されると困ると言われる。
- ▶ ・支援者側の視点をまとめるのが大変。
- ▶ ・どこまで情報提供してよいか

研修の様子



次回開催案内

- ▶ 場所：稲瀬地区交流センター
- ▶ 日時：平成31年4月16日（火）14:00～15:45
- ▶ 情報提供：「みんなで取り組む介護予防！」
- ▶ 運動：北上済生会病院 理学療法士
- ▶ 社会参加：北上済生会病院 作業療法士
- ▶ 栄養：やちだもの家北上ケアプランセンター 管理栄養士

グループワーク

「みんなで取り組む介護予防！自立（自律）支援型ケアマネジメントについて」

参加者

地域の支援者（民生委員、区長、公民館長、福祉協力員、社協支部長・職員、福祉ボランティアの会）、圏域内介護支援専門員、関係機関、リハビリ職、コミュニティソーシャルワーカー、生活支援コーディネーター、行政など